

キャン ドウ

# CanDo アフリカ

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会(CanDo)会報 2013年9月 [第64号]



活動の方向性  
ナイロビ便り

住民へのエイズ教育の展開  
ナイロビ国際空港の火災

永岡 宏昌  
伊東 彩

活動報告  
活動報告

教室の構造補修と基礎保全  
ミグワニ県における地域保健—エイズ・リーダー研修

鬼頭 景子  
岩本穂菜美

ケニアでの活動から

国内  
フォトレポート  
事務局から

CanDo 設立 15 周年記念イベント  
教室の構造補修と基礎保全

写真: エイズ学習会の参加者のためにいすを運ぶエイズ・リーダー、そして学習会の様子。ミグワニ県

## 住民へのエイズ教育の展開

代表理事 永岡 宏昌

2004年10月にムインギ東県ヌー郡の小学校で教員・保護者を対象に実施したエイズ啓発ワークショップが、エイズに特化した当会の最初の活動です。地域でエイズが深刻な問題となっていたため、当会が目指す総合的な社会開発の一環として、エイズに取り組むことにしました。そのために、発症者や孤児への支援、HIV陽性検査などは行わず、標準的な情報を住民や教員へ提供する、エイズ教育に焦点をあてました。当初、専門家によるエイズ教育を準備しても、エイズを学ぶために集まることを住民が躊躇する状況が多く見られました。カンバの人たちは、一世代異なる異性の親族が性的話を一緒に聞くことに、心理的な抵抗がありますが、それ以上に、エイズ固有の難しさがありました。

ケニア政府は、1999年にエイズ国家災害宣言を行ない、地域の行政官が住民へのエイズ教育をすることを義務付けました。けれども行政官へのエイズ教育が十分に行なわれなかったため、エイズ問題を体系的に教えることができずに、道徳面を強調したり、単純化した標語を用いて脅したりするばかりでした。HIV陽性者に住民集会の場で体験を語らせることまでして、住民の予防意識を高めようとしたようです。一方、地域の住民の精

神的なよりどころであるキリスト教教会各派は、エイズと不道徳な性交渉を強く関連付けて語り、HIV感染を予防するには夫婦間性交渉を守る必要があることを強調しました。さらに、コンドームは他の性感染症は予防できても、HIV感染は予防できないとする、極端な情報を広範に流布しました。住民のエイズへの危機意識ばかりが高まりました。他者のHIV陽性を疑い、自己の予防のために疑わしい人に近づかないようにする、エイズを学ぶことを無意識に停止する、積極的に教えようとする住民をHIV陽性者と推測してしまう、という社会の風潮につながりました。

当会の住民へのエイズ教育は、専門家が村まで出かけて、直接教えることを優先しました。対象地域の住民の間に標準的なエイズ情報が広まっていきました。次の課題として、村の中で日常的・継続的に最新のエイズ情報が共有されるために、住民からエイズリーダーを育成することも重要と考え、その研修も行なってきました。最近、リーダー研修に住民が積極的に参加し、多くの修了者が自分の村でエイズ学習会に真剣に実施している姿を見ます。そろそろ、「住民から住民へ」エイズを伝えていくことを重視する活動に移行できるのでは、と考えています。

## ナイロビ便り

### ジョモ・ケニヤッタ国際空港の火災

調整員 伊東 彩

日本に一時帰国するため、9月1日にナイロビのジョモ・ケニヤッタ国際空港を訪れた。焼き焦げて黒い煤だらけの国際線ターミナルを見て、その火災の規模の大きさに改めて驚いた。出国ターミナルの入り口の警備はいつも以上に厳しく、空港関係者が3人態勢で入場者の旅券やパスポートをチェックしていた。

日本含め、海外のニュースでも取り上げられた、ナイロビのジョモ・ケニヤッタ国際空港での大規模な火災が起こったのは、8月7日水曜日のことである。この火災によって国際線ターミナルが広範に焼け、一時空港は閉鎖される事態となった。幸いにも負傷者は出なかったようであるが、東アフリカ最大の同空港の火災は、ヒトとモノ両方の動きに多大な影響を与えたようである。

ところで、この火災が起こった原因であるが、当局の発表によると、火の不始末であるとのこと。火の不始末・・・？ 不明確過ぎて、なんだかもやっとした。ターミナルの焼け跡をまじまじと見ながら、こんなに大きな火災が起こったのに・・・、と私の「もやっ感」は高まるばかりであった。

この「もやっ感」を抱いていたのは、どう

やら私だけではないようで、知り合いのケニア人も言っていた。

「何か事件が起こった時には目撃者か第一発見者の証言が重要になるだろう？ 時間が経てば経つほど、誤った情報やデマや噂が多くなってしまい、今じゃもう原因はわからないだろう」

それは、愚痴をこぼしているようにも聞こえた。

実際に巷では、今回の火災の原因についていろいろな説が噂されていた。火災が起きた8月7日は、1998年にナイロビで米国大使館の爆破テロ事件\*が起こった日であり、今回の火災もテロではないか。ケニアの億万長者と言われる某実業家が、空港の免税店の営業許可をはく奪された復讐として、放火したのではないかと、とか。

仮に火災の原因が火の不始末であったとしても、火の手が広範に回る前に火災に気づけなかったのか、更なる「もやっ感」を感じる。

\* 同日、ほぼ同時刻に爆破された、タンザニアの首都ダルエスサラームの米国大使館の被害者を含めて、224人以上の命が奪われ、5000人以上が負傷した。

## 活動報告 教室の構造補修と基礎保全

調整員 鬼頭 景子

2011年に当会が教室建設の活動を開始したミグワニ県の小学校の多くは、築20年ぐらいいわれる。窓が小さい、屋根が低い、基礎が浅い、教室サイズが規定よりも小さい、などの校舎建設当初からの問題がある。それとともに、トタンが古くなった、屋根の骨組みがシロアリに食べられている、雨水が流れ込む、などの時間の経過とともに浮上する問題が見られている。

また、傾斜地に建設された小学校では、土壌侵食により、教室の基礎部分が露出したり、壁に複数の大きな亀裂が見られたりして、深刻な状況では崩壊することもある。

当会は教室建設に加えて、2011年から教室の基礎保全、2012年から構造補修の活動を行なっている。

### ■教室の構造補修

住民が建設した教室の壁の材料は、焼成レンガ、土レンガ、砂ブリック(砂+セメント)、石ブリック(レンガ型に切った石)とさまざまである。通常、教室補修としては、壁へのモルタル(セメント+砂+水)の上塗りと屋根のトタンの張りかえが行なわれている。上塗りでは外見は新築のようになるが、構造は強くなり、壁が重たくなるので、もろくなっている場合は、逆に崩壊する危険性がある。

当会では、従来のように壁ではなく、柱脚・柱・リングビームで屋根を支えるように構造を補修している。鉄筋コンクリートの柱脚・柱の設置、壁の再建、鉄筋のリングビーム(はりの設置、屋根を新たにふく、という作業になる。柱の部分を切り取った残りの壁はそのまま再使用している。

また、屋根の高さを確保し、教室や窓を規定のサイズに調整して、換気が十分できるようにしている。

扉の外側に土壌が堆積し、雨水が流れ込む可能性がある教室では、床を底上げして、壁、リングビーム、屋根の位置を高くするという補修を行なうこともある。

### ■教室の基礎保全

教室の基礎を保全するためには、リテンド壁(土留め壁)を建設し、基礎の周りに土を埋め戻している。2011~12年は、緊急の環境活動として実施した(会報第59号 p3、p7参照)。

2012年から、教室の構造補修と基礎保全の活動も、教室建設と同様に、保護者の学校運営能力向上も目的として、学習会を開催している。そして、学校独自の活動として継続も視野にいれたうえで、専門家からの技術指導を入れて活動を行なっている。

## 活動報告 ミグワニ県における地域保健—エイズ・リーダー研修

インターン 岩本 穂菜美

ミグワニ県の地域保健活動では、エイズと母性保護の公開学習会(2011~12年)、基礎保健研修(2012~13年)に続き、研修を修了した住民を対象として、2013年からエイズ・リーダー研修を行なっている(ムインギ東県では、2010年に開始した)。

### ■エイズ・リーダー研修のための住民集会

各地域の区長と助役を訪問し、当会の研修を説明して実施の合意を得てから、準区ごとに住民集会と研修の日程を決める。助役が開く住民集会には、研修の参加資格がある住民、それ以外の住民、そして当会のスタッフが参加する。当会は、参加候補者に研修内容の説明をするとともに、周囲の住民に研修への理解を促している。

また、集会では保健衛生に関する住民への聞き取りをしている。履修した基礎保健研修の項目について、その後実施できているかどうか、と質問をすることで、研修に参加していない住民にその内容が共有される。そして、エイズの項目についての聞き取りが重要になる。コミュニティにおいて、エイズに関する問題について話し合い、それに対して自主的に取り組む意思を持っているかどうか。その意思のある候補者に、研修の参加を促す。

### ■エイズ・リーダー研修

研修は3日連続で行なう。1日目は、エイズについて、基礎保健研修より密度の濃い、科学的な知識を学ぶ。参加者の多くは知識の吸収に集中している。

2日目は1日目の内容を復習し、グループ活動を行なってから発表をする。専門家と参加者の間で議論する中で、参加者は得た知識を自分たちの日常生活に当てはめ、HIV感染の危険性がどこに潜んでいるのか、どう予防すべきかを考える。このため多くの意見や質問が挙がる。

3日目はエイズの教授方法について学ぶ。実際に情報を共有する場面を想像しながら、得た知識をコミュニティ内でどのように広めていくかを考える。ここでもグループ活動と発表を行なうが、2日目と比較し達が感じられる。

### ■リーダーによるエイズ学習会

研修後を修了したリーダーは、住民を集めて、エイズ学習会を開く。当会の専門家が参加して、終了後に必要な助言を行なう。ムインギ東県のようにリーダー認定はしていないが、研修の質も向上して、適切に伝えるレベルにあると評価している。自律的な学習会を開催するリーダーも出ている。

## ケニアでの活動から

—2013年6～8月

### ■ミグワニ県

#### ○学校—施設拡充

・事前の学習会を開催。作業に入った学校もある(→p.4, p.7)。

・小学校1校で水タンクを設置。

#### ○学校—環境活動

・土壌保全では草地化を実施。木の苗床を設置し、移植を行なう。

・害虫駆除の学習会を開催。

#### ○学校—保健

・エイズ教育研修を修了した教員による公開授業を2校(各2クラス)で実施。

・小学校を訪問し、早期性交渉予防研修を進

める一方、集合型研修について内部会議。

・今年度の対象幼稚園で、活動の覚書を締結し、学習会を開催。

#### ○地域—保健

・13準区でエイズ・リーダー研修を実施。リーダーによる学習会が計27回開催(→p.5)。

### ■ムインギ東県

#### ○地域—保健

・2準区で計3回のエイズ・リーダー研修参加者による学習会が開催される。リーダーの認定証を授与。

### ■ナイロビ市ムクル・スラム群

・高校生への補習授業を10日間、実施。

## CanDo 設立 15 周年記念イベント～活動報告とトーク&感謝の集い～

CanDoにとって15周年の記念日は、実は今年の元旦。1997年12月23日の設立総会で、「1998年1月1日をもって設立」と決めました。約7か月遅れて7月20日、設立総会の会場と同じ文京区民センターで、設立15周年記念イベントを開催しました。

前半は、活動報告とトーク。永岡宏昌代表理事が「15年の歩み」を報告した後、ケニアで設立準備からかかっていた元スタッフ3人—現在、役員—が、「設立当時のこと～現在の仕事」を話しました。

初代調整員の中塚史行準理事は、特定非営利活動法人NIREの代表理事として、国内で教育問題に取り組んでいます。ナイロビ駐

在員(当時の名称)だった國枝信宏監事は、JICAが西アフリカのセネガルで行っている、教育環境改善プロジェクトのチーフアドバイザー。非専従スタッフの國枝美佳理事は、国際機関の職員として、アフリカのいろいろな国で保健プロジェクトにかかわっています。それぞれの話の後、美佳さんの進行で15年を振り返りました。

後半は、ケニアのビール「タスカー」(黄色の地に黒の象のラベル)を手に感謝の集い。98年にケニアで活動したボランティア、エイズ関連の取り組みを始めたときのスタッフをはじめとした懐かしい顔、勉強会の参加者など、新旧のメンバーが語り合いました。

## フォト・レポート

### ミグワニ県の小学校における教室の基礎保全と構造補修



↑ 右2教室は壁を動かして構造補修済み、中央は作業中、左2教室は今後、保護者だけで補修



↑ 手前は崩壊後の教室



↑ 後に、隣も崩壊



↑ ロバで資材運び / 基礎のレンガの固定作業



↑ 壁を切り、鉄筋コンクリートの柱を入れたのが白い部分。横方向につなぐ鉄筋のはり



まず、リテンド壁を作り基礎周りの土を埋め戻しその後、教室の構造補修→

## 事務局から

### 報告

#### ◇組織

○7月20日、2013年度第2回理事会を開催。  
2013年度の活動の中間報告と後半の活動計画、および1月～6月の東京事務所の試算表を確認。CanDo預託金の第2回募集の修正を決定。

#### ◇国内活動

○6月10日、NGO・外務省定期協議会 全体会議、および7月16日、同「連携推進委員会」に永岡が出席し、タンザニア調査の報告。  
○6月29日、JICA 駒ヶ根の信州グローバルセミナー2013で、代表理事永岡宏昌に代わって理事・事務局員佐久間典子が講義、永岡はスカイプで参加。  
○7月6日～9月1日、JICA 横浜の「アフリカ―手をつないで前へ―」で、パネル展示。  
○7月9日、法政大学法学部の坂根徹准教授のゼミで、永岡が講演。  
○7月12日～26日の金曜夜、講師永岡の都合で予定より1週ずつ遅れて、CanDo勉強会を開催。第4回「ムインギにみる生活と環境問題、小学校での活動」、第5回「エイズ基礎知識、ムインギでの課題と住民へのエイズ教育」、第6回「ムインギの小学校でのエイズ教

育・早期性交渉予防研修」。

○7月16日、外務省 TICAD V 政策対話に永岡が出席。

○7月20日、CanDo 設立 15 周年記念シンポジウムと感謝の集いを開催。

#### 人の動き \* 派遣・出張先はケニア

○6月13日～25日、事業責任者(兼任)永岡宏昌が出張。

○6月26日、吉岡航希(よしおか こうき)をインターンとして派遣。

○7月31日、永岡が出張。

○8月17日、西岡宏之(にしおか ひろゆき)をインターンとして派遣。

○9月2日、調整員 伊東彩が一時帰国。

#### お知らせ

■ 10月5日(土)・6日(日)

**グローバルフェスタ JAPAN 2013 に出展**  
恒例のイベントで、展示、販売に加えて、サイザルのかご編みを体験する場を設けます。  
開催時間: 10:00～17:00  
会場: 日比谷公園  
ブースの位置: スカイエリア S-18a  
ウェブサイト: <http://www.gfjapan.com/>

■ 次号は、2013年12月に発行の予定です。

#### CanDo アフリカ [第64号]

2013年9月25日発行

発行人: 永岡宏昌 編集人: 佐久間典子  
発行: 特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会 (CanDo)  
〒110-0001 東京都台東区谷中2-9-14 第2森川ビル B号室  
電話/FAX: 03-3822-1041  
電子メール: [tokyo@cando.or.jp](mailto:tokyo@cando.or.jp)  
ウェブサイト: <http://www.cando.or.jp/>  
郵便振替: 口座番号 00150-2-15129 加入者名 アフリカ地域開発市民の会